

植いき新聞



植物いきいきサークル

第94号

発行者：川端、菅原、
村田、孫崎、古新

ある日、〇〇さんが八百屋さんに行きました。

第1話

昔々、おさるさんがいました。ある日、おさるさんは近所の八百屋に買い物に行きました。

「りんごを1つください。」

店員さんは

「はい、分かりました。」と、まるで猿のお尻のような真っ赤なりんごを手に取りました。

「おいくらですか。」

おさるさんが尋ねました。

店員さんは、

「赤い石と交換だよ」と言いました。

おさるさんはどうしても真っ赤なりんごが欲しくてたまりません。そこで、赤い石を探しに赤瀬川の河原へと向かいました。

しばらくすると、川の上流からまるで人が中に入れるくらいに大きなかぼちゃが流れてくるではありませんか。おさるさんは家に持って帰るために仲間を呼びに行きました。みんな協力して川から引き揚げ、縄で引っ張って家まで運びました。

中身をくりぬくと、なんと、赤い石が出てくるではありませんか！ 八百屋さんに持っていき、りんごと無事に交換することができました。(続く)

第2話

おさるさんが八百屋さんでりんごと赤い石を無事に交換できました。その帰り際、店員さんがかぼちゃの種はどうしたの？」と尋ねました。

おさるさんは、

「畑にまいたんだ。」と答えました。おさるさんの畑には、たくさんのかぼちゃの芽が顔をのぞかせています。おさるさんは考えました。

「このかぼちゃを八百屋さんに持って行って、りんごと交換してもらおう。」

夏になり、たくさんのかぼちゃが実りました。おさるさんは八百屋さんに持っていき、「りんごと交換してくださいな。」と八百屋の店員さんをお願いをしたところ、店員さんは断ったのです。

「こんなにたくさんのかぼちゃはいらん！」と。店員さんは、森の中のくまさんに聞いてみるように勧めました。

くまさんは、おさるさんが作ったたくさんのかぼちゃを喜んで受け取りました。そして友達のくまさんに配りました。

くまさんは、おさるさんにお礼をしようと考えました。おさるさんを森の中の温泉に招待し、そこで森の中で集めた木の実をプレゼントしました。おさるさんは、温泉につかりながら木の実をたらふく食べ、幸せな時間を過ごしました。(続く?)

一月終わりに、アイ先生とともに利用者の皆様と「物語の制作」に取り組みました。八百屋さんから始まったお話は、いったいどこへ向かうのでしょうか…
話が歩き詰ったときに助けになったのは、やはり「植物」でした！